

## 新ごみ処理施設最終候補地の地元説明会における質疑・応答・意見

### 説明会の概要

新ごみ処理施設建設候補地の同意を得るため、以下のとおり説明会等を開催しました。その際に出た質疑・意見については、次のとおり回答しています。

名称	日時	開催場所	参加者
平瀬川西町会協議会	令和2年12月10日(木) 午後7時00分～	松本クリーンセンター大会議室	21名
島内地区町会連合会協議会	令和2年12月16日(水) 午後7時00分～	松本クリーンセンター大会議室	19名
島内地区住民説明会	令和2年12月20日(日) 午前10時00分～	島内公民館講堂	21名

No.	項目	質問	回答	会場
1	1 説明会について	候補地の選定について、今後、何らかの変更というのはいりえるのか。単純に候補地の変更はありうるのか。	最優先候補地を現敷地とすることを前提としてどのような施設を作るのか検討させていただきたいとのお願いが今回の説明会の趣旨です。この間、平瀬川西町会及び島内地区町会連合会に説明してきました。そして本日、島内地区の住民の皆様へ説明・報告する機会を持ちました。 年明けに、平瀬川西町会、島内地区町会連合会それぞれの皆様から最優先候補地に対する見解が示される予定です。そうしたプロセスの中で候補地として決まってくると認識しています。それ以降は、候補地としての事務を進めてまいります。	住民
2		決まったので説明しているだけという事なのか。	No1の回答のとおり	
3	2 基本構想	資源回収施設とは？リサイクルセンターとちがうのか？	資源物回収業務は、現在現地で松本市が実施しています。資源化廃棄物処理を今後組合として実施するかは、構成市村と検討・協議し、地元とも相談しながら来年策定する基本構想の中でまとめていきます。	川西
4		新施設はラーラ松本・緑地公園の場所に建てるのか？ラーラやクリーンセンターは候補地の面積から外したらどうか	既存施設は、令和10年度末まで稼働していますので、空いている敷地に新施設を建設し、その後現施設を解体撤去後、その他の施設を整備することになりますので、必要な面積と考えています。	
5		24ヘクタールのうち、クリーンセンター、ラーラ、食肉公社を除いた面積は何ヘクタールか？	松本クリーンセンター・リサイクルセンターで5ヘクタール、ラーラ松本5ヘクタール、食肉公社3ヘクタールで合計13ヘクタールになります。除いた面積は11ヘクタールになります。	
6		計画図はできているか？グラウンドはなくなるのか？	来年策定する基本構想の中で規模を決め、計画図を作成し、運動施設等を含めた配置をまとめます。	
7		ラーラ松本とクリーンセンター関係は？ラーラの入浴施設はどうなるのか？	ラーラ松本は焼却の余熱利用施設であり、今後、維持を含めて検討していきます。地域の皆さんも交えながら検討します。	
8	あずさセンターの将来について議論を始めたい。	あずさセンターの将来について議論を始めたい。	し尿処理は全くゼロにはなりませんが、今後の施設のあり方は検討課題と認識しています。	連合
9		昨年度環境保全協議会の視察で杉並区やさいたま市の最新の炉を見たがそういう要望は通るのか？	さいたま市で視察したのはガス化溶融炉であり、焼却灰がストーカ炉に比べて少いのが特徴で、反面、エネルギー消費が大なのが課題です。何を優先順位とするか検討しながら決めていきたい。最新の焼却施設の情報を収集し、皆さんにも情報提供していきます。	
10		最新のものをバランスの取れた形で、最終処分まで含めて納得するものを選定してほしい。	ご意見として反映していきます。	
11		場所を選定しているわけだから、現地で所有しているものと同等のものと考えているとか、今回もおそらくこういうものを建てたいとか、確定したものでなくてもいいし今後変わってもいいので、何らかの事業概要があればお知らせ願いたい。	事業概要については、現在白紙の状態、今後、皆様と相談しながら決めていきたいというのが私どもの考えです。ごみ処理施設を計画するためには、 1 処理能力を例に取れば、今後の構成市村のごみ減量計画と合わせ過大な施設とならないものとする。 2 ごみ処理は、収集から焼却、最終処分という一連の流れであり、現在大都市圏でも大きな課題である最終処分に負荷の少ない方式を検討することも必要。 3 一方で最終処分量を極小化するためにはエネルギー投入量・運用管理費用の増など相反する課題も想定される。 今後、地域の皆様を交えてこれらの課題に方向性を見出し、優先すべきことを決めていく。その結果として処理方法、処理能力等、来年一年かけて事業構想を決めていきたい。	住民

12	2 基本構想	最終候補地はまだ最終決定ではないが、令和11年には最低新炉が動かなければならない。全体的には候補地が決まった後の工程はどの様に情報公開してもらえるのか。	どのような施設を作るかはまだ選択の幅があり、踏み込んだ事業内容については、候補地とした前提で制約条件を明確にし、地元の皆様と意見交換をしたうえで、計画を固めていきたいと考えています。	住民
13		現地に建て替える場合、空き地は無いので着工後ラーラ松本なり、グラウンドなり、公園なり何らかの施設が使えなくなる、例えばグラウンドの場合代替の施設をどこかに作るという事はあるのか。	現24ヘクタールの中で今の機能を維持し、建物が無い場所へ新たな焼却炉を建設。現施設を解体後、今ある機能を再配置するのが基本です。全体の配置計画ができた段階で、どの機能がどのくらい減り、どれくらいの間供用ができないのかが明らかとなります。	
14		敷地内の利用方法が決まってないようだが、例えばグラウンドや公園の位置に建てた場合、現建物解体後公園やグラウンドを造ってもらえるのか？	着工は令和7年度を予定しています。再配置をするにしても、一部施設で一定期間使うことができない可能性があり、若干利用の我慢をお願いする場合があります。利用する皆さんが代替の活動をどのように続けられるかを配慮しながら体制を整えていく予定です。	
15	3 評価結果	調査項目の点数の載ったものを出してほしい。	組合のホームページに公開しました。	川西
16		水資源は焼却施設に必要と考えるが、他の4候補地の状況はどうか？	必要となる水道施設はどこも整備されています。	
17		学校施設や医療施設等から離れていた方が良い理由は何か？	一般論として、焼却施設は迷惑施設と捉えられています。車両による排気ガス等による大気汚染、収集車による交通渋滞・事故の危険性等の理由から、住民が利用する当該施設からの距離が離れていた方が良いと考えられています。	
18		コンサルを2社入れる必要があったのか？無駄遣いではなかったか？	客観的・多角的な観点から検討するため2社に委託しました。異なる観点から評価できたと考えています。	
19		現地建替えありきでないと思っているが、疑問がある。全体の面積が他では確保できない。その面積が確保できるか検討したのか？	焼却施設を設置するのに最低必要な広さである4ヘクタールを基本として、4市村域から候補地として可能性のある場所を調査しました。一次選定において120カ所の候補地を選定したものです。	
20		将来のごみのコストにどう影響するか？クリーンエネルギー、CO2を出さないことでコスト増になるのでは？	現在組合の年間予算は概ね30億円。広域化によるスケールメリットによりコストが低減できていると考えます。また、ごみの削減が進めば、炉も規模もコンパクトにでき、処理費用も減ります。今後のごみ削減計画については、構成市村と検討し、施設建設に反映します。	
21		防災面についてA社のほうが30点満点のうち20点、7割。ところが、B社のほうは、ゼロとなっている。	詳細は評価結果に掲載されていますが、評価配点方法がA社は1, 2, 3点、B社は-2, 0, 2点の配点によることから起きているものです。そのため、B社の合計点はゼロとなっていますが、無得点という意味ではなく、A社と同じ採点で計算すると、現地周辺におけるB社の防災面での得点割合は66%となります。	
22	この調査にあたって、最終候補地になったということで、住民の聞き取りはしたのか。	住民の意見はお聞きしていません。		
23	4 災害対策	今年7月の大雨でクリーンセンターでは被害は無かったか？	7月の大雨では、氾濫等はありませんでした。	川西
24		過去にも破堤災害があったが、補強等の対策は？	堤防については、今年の夏から秋にかけて、千曲川河川事務所で強化工事を実施しました。施設建設にあたっては、盛土・擁壁等による浸水対策、電気・自家発電設備・監視制御設備等は階高への設置を検討します。	
25		ハザードマップでは1m浸水が想定されているがリスクへの対応は？	No24回答のとおり	
26		震災対策はどうか？	想定される地震に対応できる施設建設を計画します。	
27	住民	牛伏寺断層北端の断層が指摘されているが、検討しているか。	断層の存在はコンサル調査でも指摘されていますが、どこを通過しているか未確定な部分があります。断層のみならずこの地域の弱みをどの様にカバーしていけるのかを想定した上で安心・安全な施設を建設することは当然なことと考えています。	
28		防災面での評価項目の中に浸水想定区域も入っているのか。 千曲川河川事務所の条件無しでは今のクリーンセンターの敷地内へ建設するという事は非常にリスクが大きいという国(国土交通省)の回答ということで理解してよいか。	浸水に関しては評価の中で整理をしましたが、浸水想定等につきましては、他の候補地に比べても課題であることは承知しています。 河川管理者の千曲河川事務所とは協議を以前より進めており、一定のかさ上げや擁壁設置等が施設建設の前提になると考えています。 敷地全体としては、北側グラウンドと南側緑地地域では高低差が数メートルあり、浸水想定も差があります。施設配置によって、対応方法が異なると考えています。	

29	4 災害対策	ハザードマップでは2m～5mの浸水が想定されている。	県が公表した新たな1,000年に一度のハザードマップでは、現地は1m～2m未満の浸水想定区域となっています。施設建設にあたっては、盛土・擁壁等による浸水対策等を検討します。	住民
30		洪水については、クリーンセンターの平瀬運動公園が市の緊急避難場所から外されている。 堤防だけでいいのか、建物全体を大きくかさ上げするなりして、水害上も対策が必要なのか、それによって多額な建設費用が見込まれると思う。ここは建設コストの関係は問題ないか。	最優先候補地決定に際しては、ご指摘のような災害リスクに対応する費用が発生しても、他施設を供用開始させるための費用を比較して低いものと判断しました。	
31		島内の現プラント敷地の弱点とその対策を案件毎に具体的検討をすべきである。 浸水想定に対する安全対策、水害対策に対するコスト含めた評価は防災面で検討が必要	浸水想定等につきましては、他の候補地に比べても課題であることは承知しています。河川管理者の千曲河川事務所と協議を以前より進めており、一定のかさ上げや擁壁設置等が建設する場合の前提になると考えます。今後、この課題以外についても、洗い出しを行い、具体的な検討を進めていきます。	
32	5 環境問題	土壌ダイオキシン類の調査を実施すべきと考える。大気環境調査については組合で実施してるが、土壌ダイオキシンは環境アセスメント関連で考えるということなのか。	土壌ダイオキシン調査については環境アセスメントとの関係と合わせて検討したいと考えています。費用的な面も合わせ、エリアやサンプル数など、即答はできませんので検討課題とさせていただきます。	
33		ダイオキシン調査については、実施が不明確なことが課題。	No32回答のとおり	
34		現状のクリーンセンターは環境の問題についてどうなのか。	現状は良好な状態です。毎年2回開催の環境保全協議会の場で、ダイオキシンや排ガス等の数値を報告し、地域の皆さんに安心していただける運転をしています。新しい施設に関しましても、最新の基準に対応できるよう考えてまいります。	
35		ダイオキシン類の発生は炉の立上げ立下げ時に一番発生する。一年間を見たら確かに3つの炉が平均化されるかもしれないが、立上げ下げを頻りに繰り返せばダイオキシン類の発生はひどいのもだと思ふ。連続運転が本当は望ましい。	炉の運転に関しては、1つの炉に負荷が掛り過ぎないように取り組んでおり、立上げは3カ月に一度程度でそれ程頻繁ということではありません。その際もダイオキシン発生に注意した工夫をしています。 お約束した環境基準が守られていればそれでよいというのではなく、外部へ排出する物は少なければ少ないほど良いという考えにたち、今後とも運転をしていきますのでご理解頂きたい。	
36	6 意見・要望	今回出た質問・回答とコンサルの結果を役員に配布を希望する。	配布します。	川西
37		堤防の補強は必要。食肉公社の問題も早急に解決してもらって敷地の配置を検討してほしい。	堤防の補強については、昨年度の災害の課題から国・県が一定の対策を進めていますが、今後新施設建設の協議の中でも要望したり、独自の対策等を検討してまいります。 食肉公社の問題にも注視してまいります。	
38		・パッカー車のハイブリッド化を進めてほしい。 ・事業系ごみの分別強化し、最終処分場に影響が出ないようにしてほしい。 ・安全・安心のため道路等の整備を進めてほしい。	パッカー車はハイブリッド化を進めています。また、効率的な経路設定や、展開検査の厳重化のためには、AIやIoT等新しい技術を活用する事例もありますので研究してまいります。	
39		まだ、ここでやると決まったわけではない。平瀬川西では1/16に町会総会を開いて採決し決定となる。平瀬ありきはダメだという申し入れをして、コンサルも複数社要望した。 各町会で、要望を今からまとめておいて、ここでやるという事が決定された段階で、要望していく。国の方針、地元の要望、最新の技術、有識者への相談、それらを含めて、トータルでバランスの取れた施設を検討していく、平瀬川西だけでは、いいものとならないので、皆さんで検討して、全国に誇れるものを造っていききたい。	ご意見を参考として今後に活かしてまいります。	連合

40	6意見・要望	今後も島内住民への説明会はあるのか？島内町会連合会へ報告しても町会により町会長からの住民への報告の仕方に温度差がある。住民全体に等しく説明してもらえる場を今後とも開催してもらいたい。	これまでは、年2回の環境保全協議会の場をとらえ、報告してきましたが、新ごみ処理施設建設の協議については、住民の代表の方に参画していただくとともに、節目には直接住民の皆さんに説明する機会を設けていきます。	住民
41		学北道については、拡張を含めて検討すべきである。	パッカー車は学北道路を通らないように、周辺環境等に配慮しています。交通安全の対策等についてはご意見や要望をいただき、改善等について取り組んでいます。具体的な整備は松本市の建設部が担当しますので、協力しながら進めてまいります。	
42		これからの対応については発注者側として、業者に丸投げ・おまかせではなく、責任をもって各設備について具体的にどういうものかを事前に理解しておいて欲しい。(仕様、化学、工学、燃焼、工事の知識)	ごみ処理施設建設事業に関しては、組合内に研究会を組織して最新のごみ処理施設の状況を調査・研究してきました。今後も知識・技術の習得及び情報収集に努め、責任をもって対応できるよう努めていきます。	
43		事業を進めるにあたり、住民の意見を聞いて進めてもらいたい。他の土地を含めて検討して島内にしましたよ、という今回の説明は、良いことと思う。ただ、聞いていると現地建て替えで進めていたと受け止めてしまう。これは本意ではないと思う。表現を変えたらいい。現地建て替えのところは、たまたま島内であった場合で。メリットのコストについて候補地選定の基準からは外した方がほんとはいいと思う。今のままのだと、初めから島内ありきで進めて、あとから、付け加えたように思ってしまう。	地元の皆様と意見交換をしたうえで、計画を進めたいと考えています。受け止め方で評価が変わってしまう事がありますので、今後も丁寧な説明に努めてまいります。	
44		参加人数が思っていたより少なくて残念であった。	ご意見を参考として今後に活かしてまいります。	
45		説明会を開催したことはよかったと思う。		
46		日曜日に説明会をしていただいてよかった。平日では出席できない。		
47		候補地決定につきましては適当と思われる。		
48		私たちが生活していく上で、ごみをゼロにすることはできない。生ごみは畑に、紙はリサイクルで減量はすることはできるがゼロにはならないので、どこかが引き受けなければならない。そこで、いかにより良い施設にしていくかが大事だと思う。ぜひ松本市のほこれる施設を建設してもらいたい。		